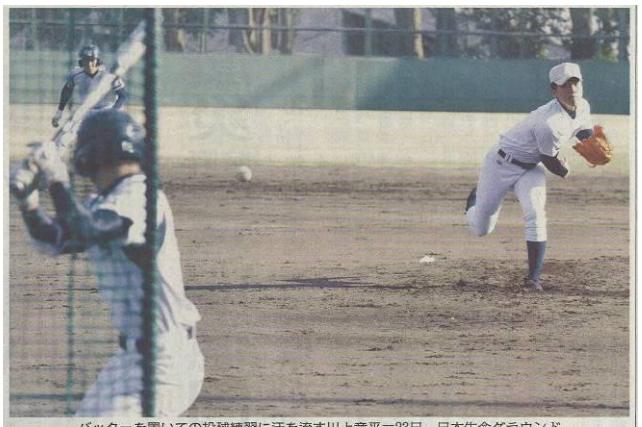
2011 年（平成 23 年） 3 月 24 日　木曜日

デーリー東北新聞　掲載



バッターを置いての投球練習に汗を流す川上竜平＝23日、日本生命グラウンド

実戦的な打撃、走塁に汗

光星、あす水城と初戦

【甲子園で本社取材班】を切った。大会第3日（25日）の第3試合で初戦を迎える光星ナインは開会式終了後、大阪府吹田市の日本生命グラウンドで調整を行い、悲願の"春1勝"を目指して実戦的な打撃、走塁練習などに汗を流した。

光星ナインは同日午前6時50分に甲子園入り。同9時からの開会式では、大勢の観客が見守る中、堂々行進を繰り広げた。

午後の練習はウオーミングアップを含めて約4時間にわたって行われた。19日以降、遠ざかっていた実戦感覚を取り戻そうと、試合に近い形の攻撃練習に取り組んだ。

秋田教良や川上竜平ら投手陣は、強打の味方打線に50～60球ずつ投げ込んだ。

エース秋田は、1番翠辰寿に初戦の相手・水城（茨城）の左打者を重ね合わせながら、カーブ、スライダーなどを織り交ぜた攻めの投球をみせ「久々だったが悪くない。ピンチ（八戸）の出来」とまずまずの手応えだった様子。川上は意識的にスライダーを多投し「腕が振れていなかったが、打者が立ったときの感覚は取り戻せた」と表情は明るかった。

打者は田村龍弘、金山光昂が力強いスイングで快音を響かせた。中でも、田村は一百分でも驚くほど」に長打性の当たりを連発し、好仕上がりをアピールしていた。

一方、本番が近づくにつれて緊張がみられるナインも出始め、仲井宗基監督にも出る場面も。仲井監督は「ベストな状態で臨むため、あと1日、できる限りのことをしたい」と話していた。

ナインはきょう24日、大阪府豊中市の豊中ローズ球場で調整し、初戦に備える。

本番に備え、練習に黙のこもる秋田教良＝23日、日本生命グラウンド

ナインに拍手を送る光星の硬式野球部員＝23日、甲子園

生の開会式に感動

○…開会式のスタンドでは、背番号に手が届かなかった光星部員19人が、ベンチ入り18人の勇姿を見守った。

ナインの行進にひときわ大きな拍手を送っていた伊藤裕貴（1年）＝三本木中出＝は「甲子園に出るために光星に入った。自分も早くベンチ入りして活躍したい」と意欲満々。金沢勇紀（同）＝市川中出＝は「初めて生で甲子園の開会式を見て感動した。自分もこの大舞台に立ちたい」と目を輝かせていた。

制服を借りて先導

○…開会式で校名入りのプラカードを手に制服姿で光星を先導したのは、登録外選手の熊田昇太（2年）。「ユニホームを着て歩けなかったのは残念だけど、一瞬でもナインと一緒の舞台に立てて良かった」と笑顔を見せた。

沖縄キャンプに同行していたため八戸に戻れず、自分の制服を持って来られなかったが、今年卒業した前チーム正捕手で大阪出身の山下健吾さんに制服を借りて晴れ舞台に臨んだ。

「だらしなく見えないように、足を高く上げて行進することを心掛けた」という熊田。「試合には出られないが、一丸となって応援する。まず勝をプレゼントしてほしい」とナインに"悲願"を託した。

気合を入れていきます

⑮川崎　貴之　2年、大館中

センバツだより

ついにセンバツが開幕しました。大会が開催されて本当に良かった。開会式直前には隣に整列していましたが、大震災などのためあいのない話を互いに健闘を誓い合いました。

開会式は緊張しませんでしたが、ホテルのテレビで試合を見ていたら、自分たちも出るんだなーという実感が湧いてきました。試合では、気合を入れて大きな声を出していきます。八戸の皆さん、僕たちは必ず勝つ試合を見せるので、応援よろしくお願いします。

デーリー東北新聞提供